

門真全域

概要版

10分で
わかる!!

未来まちづくり 構想

門真市
ものづくり産業
振興計画

R⁶⁻¹⁰

2024.3

過去

門真市のものづくりのできごと

明治44(1911)年10月
大正10(1921)年頃

京阪電気鉄道が、沿線に電灯電力の供給を開始
現在の桑才・ひえ島・三ツ島には「ミシン屋」と呼ばれる縫加工場が多数集積
主に肌着、ハンカチ、子ども服などのミシン加工を行う
大同電力大阪変電所(現:関西電力送配電 古川橋変電所)建設
経済成長による電力逼迫のため、京阪地方への電力供給を
目的とし、遠くは岐阜県木曽川水系の水力発電で得た電力を受電
綿織物と撚糸、メリヤス生産が本市の主要工業となる
(大正12(1923)年の大阪府の調査では、撚糸業、
織物業、メリヤス生地編立、ミシン裁縫業、製縄・紐業
の21工場が立地 従業者は305人)
ただし当時は大半が農村地帯

昭和8(1933)年9月

松下電器製作所(現:パナソニック)が
現在の大字門真に本社・工場を移転
ラジオ、ランプ・乾電池、配線器具・合成樹脂・電熱器を製造
店員養成所も設置

昭和12(1937)年9月
昭和14(1939)年6月
昭和15(1940)年

松下電器産業(現:パナソニック)が現在の松葉町に電動機工場新設
天辻鋼球製作所が現在の上野口町に本社・工場を移転
井澤銃砲製造所(後の大日本銃砲製造所)が
現在の常称寺町に本社・工場を移転

昭和26、27(1951、1952)年

朝鮮戦争の特需により、市内に相当数の小工場が設立されるも、
特需が終わり、たちまち消滅(記録も極めて乏しい)

昭和31(1956)年頃
昭和32(1957)年

松下電器産業工場周辺に、電機関係の下請け工場が増加し始める
建設機械・農業機械メーカーの東洋社(現:日立建機ティエラ)が現在の常称寺町に本社・工場を移転
(同社の農業機械は「日の本」ブランドで展開)

昭和34(1959)年

柳澤製作所(日本初のガス自動炊飯器を開発)の新工場が現在の柳町に完成
昭和35(1960)年から昭和38(1963)年にかけ、製造業事業所数が109から329に急増

昭和36(1961)年
昭和37(1962)年頃
昭和38(1963)年

工場誘致促進のための町税減免に関する特別措置条例 制定
門真市南部地域に電器具部品・各種小型機械、段ボールなどの小工場が進出し始める
松下電器産業変圧器事業部・厨房器事業部工場が現在の松生町に完成
(現:ららぽーと門真、コストコ等)

昭和38(1963)年
昭和45(1970)年

タイガー魔法瓶の総合工場が現在の速見町に完成
製造業従事者数 過去最高 32,355人
守口門真商工会議所発足

昭和46(1971)年

門真市総合基本計画策定(柱の一つとして
「産業構造の高度化と中小企業の近代化」を掲げる)

昭和48(1973)年
昭和49(1974)年
昭和56(1981)年
平成2(1990)年

松下電器産業 国産カラーテレビ「パナカラー」を発売
東和薬品が現在の新橋町に本社を移転
タイガー魔法瓶が電気ポット第一号「わきたて」を発売
製造業事業所数 過去最高 1,300箇所
製造品出荷額 過去最高 9,261億円

平成11(1999)年
平成16(2004)年

海洋堂フィギュアの食玩ブーム起こる 「にほんの動物シリーズ」発売開始
東和薬品が、水なしでも飲める口腔内崩壊錠で、適度な硬度と速やかな
崩壊性を両立した「RACTAB技術」を開発

平成24(2012)年

門真市中小企業サポートセンター開設
事業者と本市による「門真市ものづくり企業ネットワーク」発足

平成30(2018)年

タイガー魔法瓶とJAXAが共同開発し、「こうのとりの7号機搭載の
小型回収カプセル」に採用された真空二重断熱容器が地球に帰還

糸紬ぎ 昭和戦後期
(資料)門真市史「第六巻」



古川橋変電所
(「曾水一条電浪華万燭春」
福沢 桃介 書)
(資料)門真町史

松下電器本社全景
(昭和8(1933)年撮影)
(資料)門真町史



天辻鋼球製作所
本社工場全景
(資料)門真町史



昭和50(1975)年の
四宮周辺(右隅に弁天池)
(資料)国土地理院撮影の空中写真
(1975年撮影)を加工して作成



チョコエッグ
「にほんの動物シリーズ」
(資料)カドマイスター
企業2019
~かどまのものづくり54社~



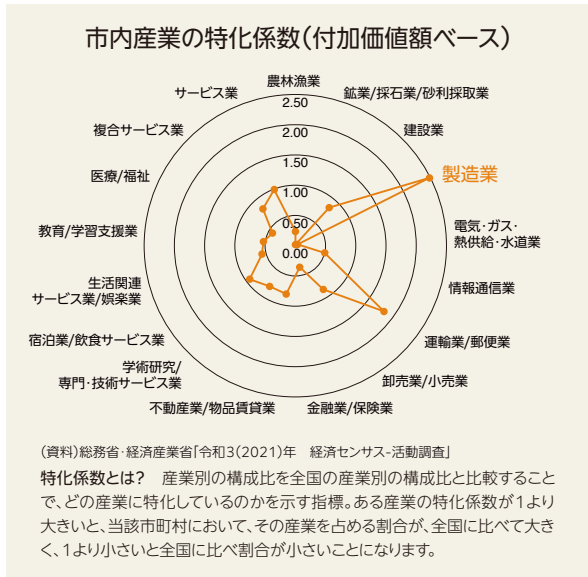
真空二重断熱容器
(資料)カドマイスター企業2019
~かどまのものづくり54社~

現在

ものづくり産業は、 本市の「稼ぐ力」の源泉

―門真市ものづくり産業振興計画―

- 本市の産業構造は、従業者数、売上金額、付加価値額等の指標において、製造業が他の産業に比べて突出しており、また歴史的にも近代以降、製造業とともに成長してきたことから、ものづくり産業が、本市の「基幹産業」となっています。
- 市内経済の活性化にはまず、「基幹産業」であるものづくり産業の振興を図ることで、本市の稼ぐ力を高め、そして、市域外からもたらされたお金を他の産業等、市内へ波及し、循環させることが必要です。
- 以上のことから、本市のものづくり産業の持続的な成長と発展を実現するための基本的な方向性を定めたうえで、これらを計画的に推進していくために、今回、新たに「門真市ものづくり産業振興計画」として、策定します。



門真市のものでづくり産業における「SWOT分析」		外部環境	
		Opportunity:機会	Threat:脅威
本市のものでづくり産業の強みと弱みを分類の上、本市が成長・発展するための機会と、悪影響を及ぼしかねない脅威について整理を行いました。こうした「強み」「弱み」と「機会」「脅威」を掛け合わせ、門真市のものでづくり産業の戦略、具体的施策の方向性を抽出します。		✓製造の国内回帰、サプライチェーンの再構築の流れ ✓大阪・関西万博の開催 ✓市場ニーズの多様化、グローバル化 ✓2050年カーボンニュートラルの実現 ✓産業界のDXの推進 ✓国によるスタートアップ創出の動き	✓少子高齢社会の進行による絶対的な生産人口の減少 ✓国内市場の縮小 ✓長期的な世界情勢の変化(不確実性の増加、日本の国際競争力低下、既存市場の変化) ✓災害、感染症等のリスク ✓国による賃金引き上げの動き ✓物流の2024年問題
内部環境	Strength:強み	●稼ぐ力の強化=高付加価値化 ●個社の強み、企業間連携を活かした、国内回帰を含む新市場の獲得 ●大企業、中小企業も交えたものでづくり企業ネットワークの強化 ●多様な主体との連携 ●スタートアップの育成・誘致 ●支援機関・施設等を含めた企業支援機能の強化 など	●企業連携関係を活かした、高付加価値化(人材、生産性向上、新ビジネス創出など)推進 ●域内受発注促進 ●支援機関の強化、支援ネットワークの強化 ●企業ロールモデル等の横展開 ●教育機関、職業訓練機関との連携(人材確保、リスキリングなど) ●企業の経営資源の共通化/共用化 ●周辺地域や他の産業集積地との連携促進 など
	Weakness:弱み	●現状変革のマインド、機運の醸成/強化 ●個社の営業力、販売力強化 ●中小企業の中核企業への成長(ハブ機能の増加) ●“見せる工場”の推進(オープンファクトリーなど) ●脱炭素対応の促進 ●デジタル化による生産性向上 ●次世代人材の育成 ●市内での産業用地の創出、ゾーニング・立地ニーズへの対応、門真ものでづくりブランドの全国的発信 など	●事業承継マッチングの促進 ●BCP策定の推進 ●デジタル人材の育成 ●多様な人材の活躍 ●新産業の創出 ●近畿圏外/海外へのアプローチ検討 など

SWOT分析を経て、本市のものでづくり産業振興の取組の方向性として、本市の持つ域外交通便利性、バラエティに富む工業集積やネットワークなどを活かし、
●人材の確保・育成、個社の技術、営業力や生産性などの強化を通じた**市内企業の経営力・競争力の強化**
●ものづくり集積の維持、発展、ブランド力向上による**産業基盤・集積の維持**と、ものづくり企業と他産業や関係機関の**ネットワーク・連携の維持・強化**
の2点がポイントとして浮き彫りになりました。

未来へ

基本理念 ―門真全域―ものづくりのテーマパーク

ものづくりのテーマパーク

本市は、基幹産業であるものづくり産業の振興を図るため、平成24(2012)年度に「門真市中小企業サポートセンター」を開設、「門真市ものづくり企業ネットワーク」を発足するなど、ものづくり産業振興施策を本格的に開始しました。それから約10年の「基礎固め」の時期が経過する中で、企業のさらなる高付加価値化をめざすべく、門真市のものづくりは次のステージに躍進する必要があると考えます。

本計画では、本市の最上位計画である門真市第6次総合計画における基本目標に基づき、本市ものづくり産業のポテンシャルを活かしながら、様々な課題に取り組むために、門真市におけるものづくり事業者、支援機関、市民、行政全ての関係者の共通の理念を以上のとおり定めます。

“クリエイティブな化学反応”

「ものづくりのテーマパーク」は、「ものづくり」を合言葉に、多種・多様な業種のものづくり企業の業績が向上するとともに、本市の活性化の主役として活躍し、未来の門真ににぎわいと、ワクワクするような体験をもたらす場所を実現することをめざします。

「ものづくりのテーマパーク」では、市内のものづくり企業が、お互いに知恵を出し合い、また、既存の枠にとらわれず、新たなことに果敢に挑戦し、次々と新しい価値を創造していきます。

門真というコンパクトなまち全域に、バラエティに富むものづくり企業が立地し、それらが支援機関・市民・行政などの様々な主体と有機的に繋がることで、“クリエイティブな化学反応”を起こし、新たな価値や無限の可能性が生まれる場所を「テーマパーク」という言葉で表します。

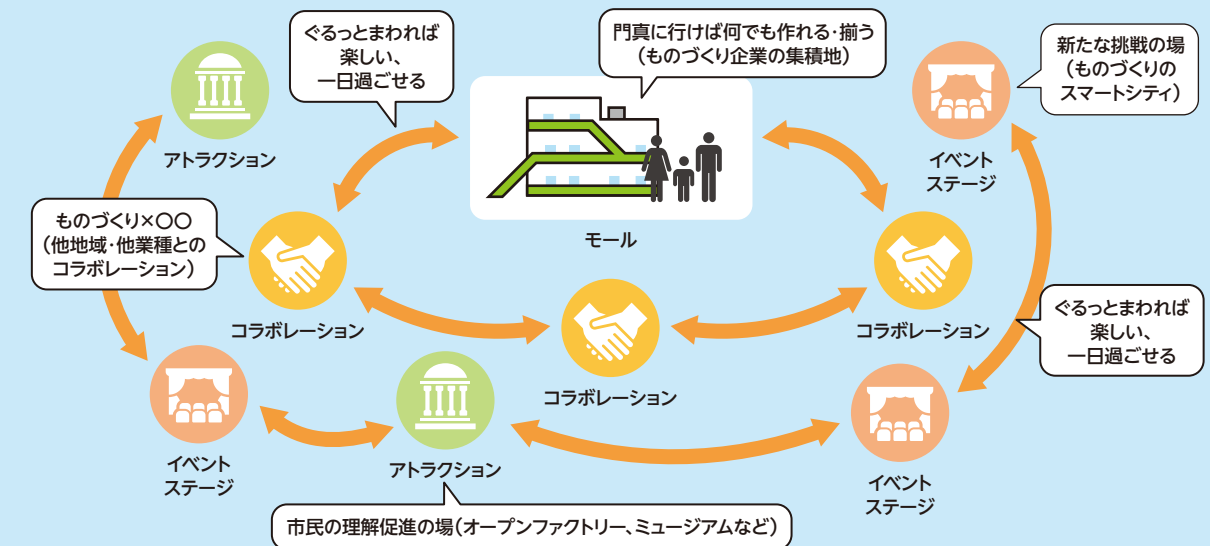
“クリエイティブ”な化学反応の一例

$\times$	=	∞ (新たな価値・無限の可能性)
ものづくり	=	新製品・技術の開発／共同受発注 など
商業・サービス業等他産業	=	新商品・サービスの創出／域内経済循環の促進 など
教育	=	キャリア教育の推進、将来の担い手の確保／研究開発 など
医療・福祉	=	医工連携による医療機器、介護用品等の開発 など
観光	=	新たな関係人口、経済効果の創出 など
スポーツ	=	Eスポーツなど、新たなコンテンツの創出 など
市民	=	住工調和のまち／シビックプライドの実現 魅力的な働く場の創出 など
まちづくり	=	「職住近接のまち」の実現 など
芸術	=	クリエイターのイメージの具現化 など
.....	=	

ものづくり

×

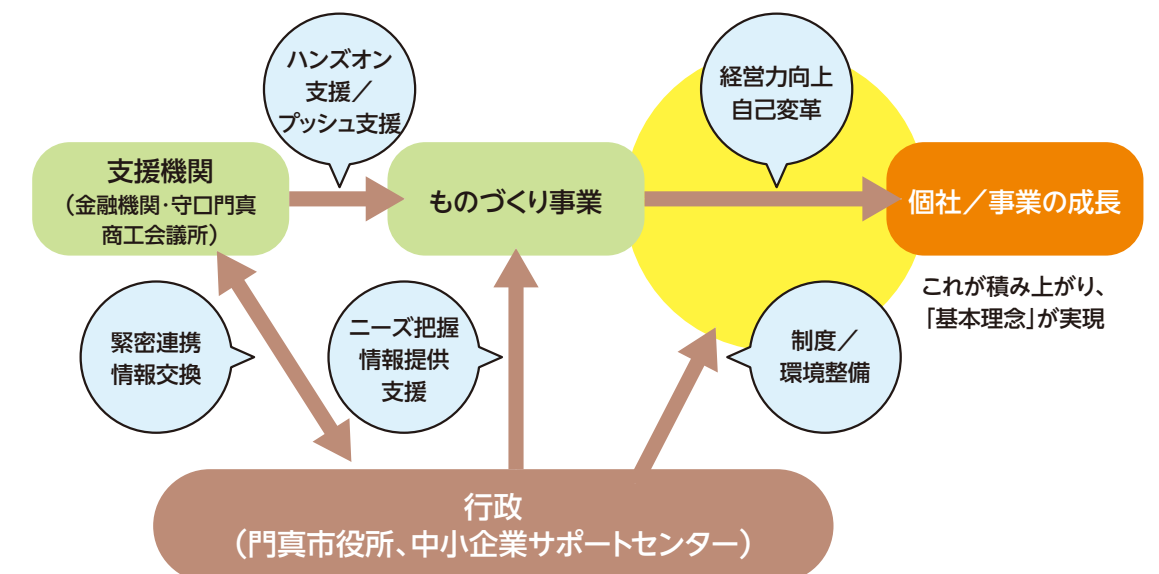
ものづくりのまちとしてのブランド (例:「ものづくりランド門真」)



施策の推進～多様な主体の連携～

本計画においては、事業者、行政機関をはじめ、いわゆる産官学の関係機関など、ものづくりにかかわるすべてのプレイヤーが協働・共創し、本市のものづくり産業振興を推進することを基本的な考え方とします。

【「ものづくり事業者」、「行政」、「支援機関」の基本的なフォーメーション】



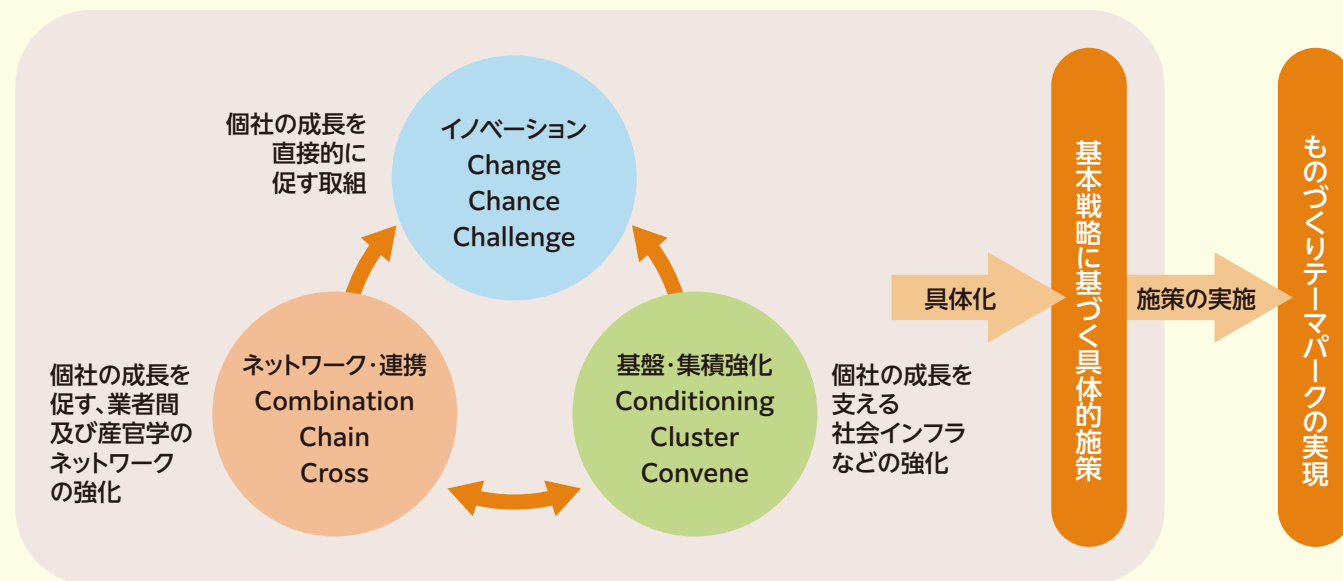
門真市ものづくり“3つの「C」戦略”①

「門真市ものづくり“3つの「C」戦略”と基本戦略に基づく具体的施策

基本理念「一門真全域—ものづくりのテーマパーク」を実現するため、ものづくり産業を取り巻く現況、課題、アンケート調査やSWOT分析の結果等を踏まえ、基本戦略として、「門真市ものづくり“3つの「C」戦略”」を以下に定めます。

- ◆イノベーション(Change・Chance・Challenge)
- ◆ネットワーク・連携(Combination・Chain・Cross)
- ◆基盤・集積強化(Conditioning・Cluster・Convene)

【門真市ものづくり“3つの「C」戦略”の関係性】

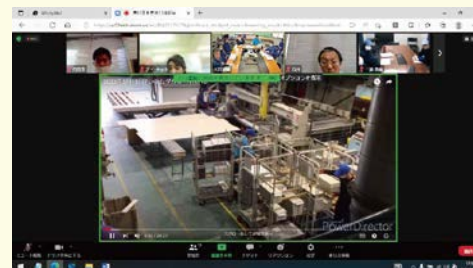


イノベーション(Change・Chance・Challenge)

ものづくり産業においても、デジタル化・DXへの対応をこれまで以上に推進し、生産性の向上、製品・サービスの高付加価値化、販売力の向上など、競争力の強化を図ります。また、脱炭素(GX)やSDGsといった、新たな時代の潮流を脅威と捉えるのではなく、新たな成長の機会として、企業価値の向上や新たな受注機会の創出につなげます。

また、市内に複数立地する大手メーカー等の持つ世界トップクラスの技術、ノウハウや人材を、地域ものづくり企業のイノベーションに繋げるとともに、大学や研究機関等との産学連携を促進します。

さらに、ものづくり関連のスタートアップ、プロジェクトの創出や次世代ものづくり支援拠点の整備等によって、先進性の高い新規事業への参入など、イノベーションの創出をめざします。



オンラインを活用した企業連携による生産性向上の取組

具体的施策

- ① デジタル化(DX)への対応・活用(テーマパークのアトラクションアップデート・最新コンテンツの投入)
- ② 脱炭素(GX)／SDGsへの対応・活用(テーマパークのアトラクションアップデート・最新コンテンツの投入)
- ③ スタートアップ、プロジェクト創出(テーマパークの最新アトラクション・最新コンテンツの投入)
- ④ 次世代ものづくり支援拠点の整備(テーマパークのバックオフィスの構築)

門真市ものづくり“3つの「C」戦略”②

ネットワーク・連携(Combination・Chain・Cross)

産業、とりわけ製造業が高密度に存在する本市において、企業間のネットワークの強みを活かし、優位性を発揮するため、より一層、企業間での相互の情報・資源共有、機能の補完、新たな価値の創出を促進します。近年では市内企業の間で、新たな交流や連携の動きが活発化しており、引き続き連携のベースとなる、「企業同士が知り合う」環境づくりを進めます。

さらに、市域を越えた取引も盛んにおこなわれていることから、集積のメリットを最大限生かすため、近隣市や国内の工業集積地との連携、異業種との連携、支援機関も巻き込んだネットワークの構築を図り、「ものづくり × X = ∞ の可能性」を追求します。



カドマイスター企業展示会合同出展

具体的施策

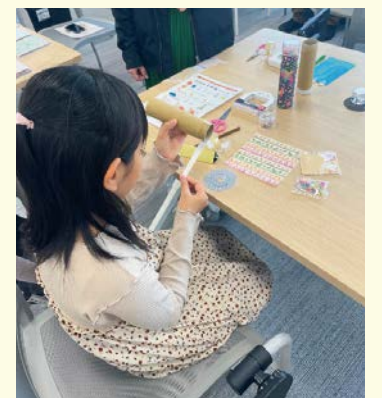
- ① 企業(支援機関)ネットワーク活動の拡大、推進(テーマパークのステージイベント)
- ② 域内受発注の促進(地域内経済循環促進)(テーマパークのショッピングモール)
- ③ 連携・共創を通じた高付加価値化(テーマパークのアトラクションアップデートと商品開発)
- ④ 域外との連携(テーマパーク外とのコラボレーション)
- ⑤ ロールモデル集約・展開(テーマパーク全体のアップデート)

基盤・集積強化(Conditioning・Cluster・Convene)

それぞれの企業が持続的に成長を続けるために、人材の確保・育成、生産性の向上、高付加価値化、企業の緊急事態への対応力向上や事業承継による技術の伝承に取り組めます。

また、本市では事業用地の不足が課題となっているものの、成長による拡張や統合を図ろうとする企業、新たに市内に進出しようとする企業、建物老朽化による建て替えを考える企業が適切に市内で事業用地を得られるように、新たな事業用地の確保と円滑なマッチングや誘導を進めます。

さらに本市は、有数のものづくり産業の集積地であるほか、全国的な知名度を持つ大手メーカーの本拠地が複数立地することから、その技術力や層の厚いものづくりの集積を『ものづくりのまち』としてブランディングを行い、全国的に浸透させ、市内企業への引き合いや成長に繋げることで市内経済の活性化をめざし、ものづくり産業の基盤強化や集積の維持を図ります。



オープンファクトリー

具体的施策

- ① 人材確保・育成(テーマパークのクルー確保、育成)
- ② ものづくりブランドの確立(テーマパークのブランディング・知名度向上)
- ③ 操業環境の維持と新たな産業用地の確保(テーマパークの敷地確保)
- ④ 事業承継(テーマパークのアトラクションのアップデート、拡張)
- ⑤ 市民等の理解促進(テーマパークの住民理解・シビックプライド)
- ⑥ BCP(災害、感染症等)(テーマパークの防災訓練)



“A little body often harbors a great soul.”

より詳しい計画本編は、
門真市ホームページをご覧ください。



発行：門真市

編集：門真市 市民文化部 産業振興課

〒571-8585 大阪府門真市中町1番1号

電話 06-6902-5966
